

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年8月1日(2013.8.1)

【公表番号】特表2011-518930(P2011-518930A)

【公表日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2011-026

【出願番号】特願2011-506645(P2011-506645)

【国際特許分類】

C 10 K 3/02 (2006.01)

B 01 J 23/63 (2006.01)

C 10 K 1/34 (2006.01)

【F I】

C 10 K 3/02

B 01 J 23/56 301M

C 10 K 1/34

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年6月12日(2013.6.12)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項1】

炭素を含有する出発物質のガス化プロセスに由来するガス中のタール含有量を減少させる方法であって、

ガス化プロセスから得られたガスの少なくとも一部と、貴金属を含有する触媒とを接触させる工程を含み、この際、

前記貴金属を含有する触媒が、Pt、Pd、Rh、Ir、Os、Ru、Reからなる群より選択される少なくとも2種類の貴金属を含む、

ガス中のタール含有量を減少させる方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

この目的は、例えば、バルク材料またはモノリス構造に適用され、貴金属を含有する触媒と、ガス化プロセスから得られたガスの少なくとも一部とを接触させる工程を含む方法によって、本発明によって達成される。ここで、前記の貴金属を含有する触媒は、Pt、Pd、Rh、Ir、Os、Ru、Reからなる群より選択される少なくとも2つの異なる貴金属を含む。また、貴金属は、以下で活性成分とも呼ばれる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

本発明による方法は、燃料ガス製造(熱化学的ガス化)の処理工程と、燃料ガスの使用

( 例えば、特に、ガスエンジン、ガスタービン、燃料電池 )との間に、タール化合物が可能な限りガスから除去される方法工程の形態で行われる。場合により、触媒によってタールを除去する工程の前に、例えば、物理的な分離方法 ( 例えば、サイクロン、フィルター、スクラバー、ディフレクターなど ) によって、粉塵および / または炭素を含有する固体をガスから分離することができ、および / または、触媒の後のガスの冷却後に他の不純物 ( 例えば、硫黄化合物 ) を、例えば、ZnO / CuO / ZnO 上または活性炭上の主な硫黄成分である H<sub>2</sub>S の吸着分離によって、分離することができる。さらに、ガス化プロセスによって得られた ガスの少なくとも一部 を、少なくとも 2 種類の貴金属を含有する上述の貴金属含有触媒と直接接触させる前に、任意で、WO 2007/116121 A1 号に記載の、ガスの酸素富化を行ってもよい。触媒によってタールを除去する工程の前に粉塵を除去しない場合、ハニカムの入り口およびハニカムの経路での固化を防ぐために、好ましくは、比較的粗いハニカム体 ( 例えば、400 cpsi ( 平方インチ当たりのセル数 ) ではなく、100 cpsi の ) が用いられる。

【誤訳訂正 4 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

本発明の方法によれば、処理されるガスを、ガス化反応器または外部の反応器のいずれかで、貴金属を含有する触媒と直接接触させることができる。本発明の枠内で、ガス化プロセスで得られた ガスの少なくとも一部 と、貴金属を含有する触媒とを接触させる。接触は、特に、ガス流を、触媒内または触媒の上に通すことによって達成される。好ましい実施形態によれば、ガス化プロセスで得られたすべてのガスを、本発明の方法にしたがって処理する。